

Validation of the Japanese version of Algoplus[®] for the assessment of acute postoperative pain in older patients with cancer

森, 万純

<https://hdl.handle.net/2324/7363643>

出版情報 : Kyushu University, 2024, 博士 (看護学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :



氏 名	森 万純			
論 文 名	Validation of the Japanese version of Algoplus® for the assessment of acute postoperative pain in older patients with cancer (高齢がん患者における術後急性疼痛評価のための Algoplus®日本語版の検証)			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	鳩野 洋子
	副 査	九州大学	教授	後藤 健一
	副 査	九州大学	教授	寺岡 佐和

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文の内容は、日本における高齢者の観察型の急性疼痛を評価するための尺度を開発するために、フランスで開発された Algoplus®の日本語版を検証することを目的としたものである。

Algoplus®を日本語に翻訳後、悪性腫瘍摘出術を受けた 65 歳以上の患者 108 名を対象に、2 名の看護師資格を有する研究者が、術後 3 日目と 5 日目の鎮痛薬使用前後に Numerical Rating Scale、Algoplus®日本語版、日本語版 Abbey Pain Scale を使用して術後急性疼痛に関する薬物療法の反応を評価した。妥当性は、Algoplus®日本語版と 2 つの既存の疼痛評価尺度との相関分析及び人口統計学的変数と手術侵襲に関連する 9 つの仮説から検証された。Algoplus®日本語版の内的一貫性には、Kuder-Richardson-20 テストが使用され、評価者間信頼性は Cohen の κ 係数を用いられた。

その結果 Algoplus®日本語版の総得点は、2 つの疼痛尺度と中程度以上の相関を示した。人口統計学的特性は Algoplus®日本語版の総得点と関連していなかったが、手術時間および術後鎮痛薬投与との有意な相関が認められた。本尺度の内的一貫性 (Kuder-Richardson-20 α =0.70) 及び評価者間信頼性 (κ 係数=0.72) は信頼性の判断基準を満たした。また、Algoplus®日本語版の総得点は、術後 3 日目及び 5 日目の両評価において鎮痛薬使用後に有意に低下したことにより、良好な応答性があることが示された。

以上の結果から、Algoplus®日本語版は、本研究を通じて一定の信頼性と妥当性が確認されたことにより、高齢者の術後の急性疼痛を観察評価するために活用可能であることが考えられた。

調査委員の合議の結果、本論文は博士(看護学)の学位に値するものと認める。

鳩野 洋子
後藤 健一
寺岡 佐和